

真崎地区 村政懇談会

日 時：令和元年7月13日（土） 午前9時00分から午前12時00分まで

場 所：真崎コミュニティセンター会議室

出席者：村執行部（村長，教育長，企画総務部長，村民生活部長，福祉部長，
産業部長，建設部長，教育部長，議会事務局次長） 計10名

事務局（課長，課長補佐，係長，地域づくり推進課職員2名） 計5名

自治会長（真崎区，舟石川三区，原子力機構荒谷台区） 計3名

参加者：真崎区29名，舟石川三区8名，原子力機構荒谷台区2名，その他41名
計80名

司会進行：真崎コミュニティセンター 小川センター長

総計99名

《次第》

1. 開会及び出席者紹介（村執行部及び自治会長）
2. 地区自治会長挨拶
3. 村長挨拶及び村政説明
4. 参加者と村との話し合い（分科会方式）
 - 第1分科会：子育て・教育について（福祉部長・教育部長）
 - 第2分科会：生活環境について（村民生活部長・産業部長・建設部長）
 - 第3分科会：高齢者福祉について（高齢福祉課長・企画総務部長・議会事務局 局長）
5. 話し合い内容報告（各自治会長）
6. 村長からの意見等
7. 閉会

《記録》

【2. 地区自治会長挨拶】（真崎地区 大内自治会長）

昨日までは梅雨本番でうっとうしい日が続いていたが，今日は太陽が出ていてスッキリとしている。日照不足により，野菜の生育等にも問題が出ているようだ。村政懇談会は真崎地区が最後ということになる。他の5ヶ所の村政懇談会は盛り上がりが出ていて，村執行部も手持ち無沙汰であったと聞いている。本日の真崎地区の懇談会は盛大に盛り上げたいと思う。また，山田村長はじめ，村執行部の方が一同に集まり，住民との意見交換ができるのが年1回であり，絶好の機会である。

本日は3つのテーマ「教育」，「福祉」，「環境」で分科会を行うが，今日集まった方々は多分生涯この真崎地区にいると思うので，住みやすい真崎地区にしていきたい。忌憚のない意見をお願いする。執行部も意見を聞いて，村の運営に当たってほしい。村が制定している「東海村自治基本条例」には，地域住民と行政は対等の立場ということがうたわれている。自由で活発な意見交換ができればよいと思う。

PRになるが，8月31日（土）に「第12回真崎古墳行燈まつり」を開催する。

真崎地区 村政懇談会

例年は駐車場で行っていたが、今年は古墳の中の中央広場で行う。14時から19時までの明るい時間帯に開催する。ただ、古墳の中には水道やトイレがないので、不便をかけるがぜひとも参加をお願いする。模擬店では焼きそば、赤飯、カレーライス等を出す予定だ。この他、例年通りアルコール類も出す。恒例の東海音頭、大抽選会も実施する。また、茨城国体が9月29日から10月3日まで、阿漕ヶ浦公園にて開催される。全国の予選を勝ち抜いたホッケー成年・男女の18チームが集まる。小・中学校ではクラスごとに応援をする計画があるが、真崎地区でも、全国から来た選手を応援したいと思う。ホッケーのルールが分からなくても雰囲気だけは十分に楽しめると思う。毎日でも足を運んでいただきたい。

【3. 村長挨拶及び村政説明】

今年度の村政懇談会は真崎地区が最後になる。2日前の村松地区は夜間に開催された。地区ごとにやり方が様々である。今日は分科会を中心に行うが、白方地区でも同様に分科会を実施している。いろいろなやり方があってよいと思う。今日は9時から12時までの3時間を予定しているが、土曜日の貴重な時間を費やして意見交換がしたいということは、地区の方々の心意気であると思っている。参加した方が自分の意見を出し合えるという意味では分科会はよい形だと思っている。先日の村松地区では従来の形の村政懇談会であったが、結局は同じ方が2、3回質問していた。大勢の中で手を挙げて意見を述べることは難しい。真崎地区や白方地区のような分科会形式にすることによって、手間はかかるが、広い意見が聞けると思う。執行部も非常に厳しい場面だと思うが、住民の生の声なので、しっかり反映できるようにしたい。

今年度も7月に入り、3ヶ月が過ぎた。順調に村政が進んでいると思っている。各地区の懇談会の意見で一番多いのは、自治会への加入が少なく、担い手不足により、地域が疲弊しているという話だ。重々分かっているつもりだが、有効な手立てを打てないのが現状だ。村が自治会加入を強制するわけにはいかない。今の若い方達の価値観や感覚が昔の方とは違う。もう昔には戻れないので、今の時代、これからの時代にあった地域づくりをせざるを得ないのだろう。皆さんが長年培ってきたもの、残してきたものを存続したい気持ちは分かるが、それが引き継げないのであれば、中身を見直し、絆だけは維持していけるような地域づくりが必要だと思う。いろいろな場所でいろいろな意見を聞きながら、東海村のそれぞれの地域づくりをどうするかを考えていきたいと思う。村では新しい総合計画づくりに着手している。村の総合計画は基本的にはオール東海で考えていることがほとんどになる。地域ごとの個別の課題に目を向けた企画は総合計画には書きづらいので、地域づくりについては別途議論する必要がある。村全体を活性化する施策と、地域ごとに置かれた状況に応じて手を打つべきところは、両方をやらなければならないと思っている。役場の職員数も限られているので、住民の方と協働でやっていく必要がある。

真崎地区 村政懇談会

今日は、資料を用意したので、それについて説明する。まず道路整備に関してだが、地図上の6本の道路の話をする。①は国道6号になる。今年度に新規事業化されたもので、一番大きいニュースになる。全長約3kmで総事業費が約110億円かかる見込みだ。用地が取得できれば、国に予算を要望し、なるべく早く整備したい。ここは常陸河川国道事務所が直轄事業として行うが、村としても協力していきたい。

②は久慈大橋になる。国道245号の拡幅工事は順次行われており、茨城国体開催までには日立市側から阿漕ヶ浦公園入口まで整備が進む。その先のひたちなか市までは来年度以降になる見込みだ。道路が完成しても、久慈大橋が2車線のままだと渋滞してしまう。3桁国道なので、県事業になるが、国からの補助事業が決定し、今回は設計費がついている。橋なので早急にはできないが、橋と陸地部分が4車線化されれば国道245号の渋滞が緩和されると思う。

③は県道の水戸外環状道路になる。県の事業だが国の補助事業となることが決定した。国道245号から国道6号までの東西を横断する道路になる。約6km程あるので時間がかかるだろう。現在東西をつなぐものが、原電通り、原研通り、駆け上がり線の3本あるが、この道路ができることによって、常陸那珂港に行く大型車が使うようになり、村全体としても効果が期待できると思う。

④は東海中学校の裏側になる。現道の駅側はきれいに整備されているが、海側には歩道がない。従来から地域の方々からは危険だと言われているが、道路を拡幅し、歩道整備をするために用地交渉を行っている。全てが終了していないので完成時期が未定だが、用地の提供をお願いし、早急に整備を進めたいと思っている。

この道路とぶつかるのが⑤の勝木田下の内線の道路になる。橋だけが完成していて道路が未完成のままだったが、令和2年度中に前後の道路築造工事を行う。本当は今年度中に完成させたかったが、歩道の整備が間に合わないため令和2年度の完成になる。なるべく早く供用開始したい。この道路が完成することによって、この先のフードストッカーには現道があるので交通アクセスが変わってくると思う。

⑥はひたちなか市の市道になる。点線の部分はひたちなか市のエリアで、高野小松原線という。この工事をひたちなか市が行い、今年度末に完了する。フローレスタ須和間内の村道は完成しているので、ひたちなか市のさわ野杜団地・常盤台団地の県道と東海村側がつながる。今まではフローレスタ須和間から南台を抜けてひたちなか市に出ていたが、この道路が完成することによって、ひたちなか市へのアクセスが便利になる。一方で佐和地区の方が東海村へ来やすくなるので、交通量が増えることが予想される。東海南中学校前・イオン東海店・ヨークベニマル前の混雑が予想される。道路ができることによって車の流れが変わってくる。村としては様子を見ながら、場合によっては信号機の時間の調整を警察に相談する等、随時対応していきたい。よろしく願います。

広報とうかい4月10日号には重点施策を5つ掲げているが、今回は3つを紹介す

真崎地区 村政懇談会

る。子育て支援について、病児・病後児保育施設「るびなす」が5月にオープンした。担当課によると、今の季節は手足口病が流行っているので、利用者が毎日いるようだ。定員4名を超える程の利用はないが、3名程度の利用があると聞いている。早くオープンできて良かったと思っている。冬にはインフルエンザ等が流行るので、この時期はフル活用されることが予想される。このような施設ができて良かったと思えてもらえればよい。施設を利用するためには事前登録が必要になる。まだ登録していない方にお知らせしていただければと思う。保育士等緊急雇用対策と小規模保育施設整備費補助については、待機児童解消の一環として行うものになる。今すぐに新しい保育所を造ることは難しいが、内部で検討している。箱モノを造るのも大事だが、まずは、保育士を確保するために復職支援・給与補助・家賃補助の3点を支援していく。また、待機児童は1歳児が非常に多くなっている。そういった年齢層は、園庭を使用しなくてもよく、ビルの一角でも保育が可能なので、民設民営でやってもらいたい。現在公募をかけている。小中学校・幼稚園のエアコン設置については、6月から運用を開始している。たまたま今年は暑くはないが、9月以降も暑い日があるので、熱中症予防のためにもひと安心だ。

茨城国体については、自治会長からも案内があったが、9月29日から10月3日の5日間、できるだけ多くの方に会場に足を運んでもらいたい。特に阿漕ヶ浦公園での応援をお願いしたい。東海高校は少年・男女の試合なので、高校生の選手の保護者が来ると思うが、阿漕ヶ浦公園は成年・男女の一般社会人の試合会場になる。企業チームであれば、応援団等もあると思うが、遠い地区からの大応援団は無理だと思う。皆さんには茨城県以外のチームの方も応援していただきたい。また、国体やオリンピックのあとには障害者のゆめ大会・パラリンピックが行われる。ここまでがひとつの大会だと思っていただきたい。10月12日から10月14日の3日間、笠松運動公園で行われる。馴染みのない競技が多いが障害者の方が一生懸命に取り組んでいるので応援をお願いします。ホッケーについては、国体によって機運が高まったが、国体が終わった後も東海村のスポーツの象徴として活用できるように、その振興も考えていきたい。

(仮称)歴史と未来の交流館について、パンフレットを配布しているが、今月下旬に地鎮祭を行い、建設に着手する。工事は来年度末までかかる見込みで、開館は令和3年7月を予定している。工事を安全に行うことは当然だが、その後の管理・運営体制が非常に大切になる。館長の選任等、しっかり精査しながらやっていきたい。施設についての意見がたくさんあるが、最終的には「造って良かった」と思ってもらえるようにしっかり進めていきたい。それに付随して、文教エリアの駐車場については、古い中央公民館には文化財等が置いてあり、それを交流館に移設すれば、解体することができ、文化センター前に広いスペースができる。それだけでも十分に活用することはできるが、段差等があり使いづらい。この機会に道路面と合わせるためにレベル

真崎地区 村政懇談会

を下げる。文化センターへの進入道路についても駅西と駅東を跨ぐ常磐線の陸橋と一緒にあって危険だったので、駐車場やI～MOのまつり等のイベント会場としても利用しやすいように、再整備を考えている。これについても、住民の皆さんの意見を聞きながらやっていきたい。

原子力政策について、東海第二発電所の動向については、日本原子力発電所(株)と周辺市町村の住民説明会を行った。いろいろな意見が出たという報告を受けている。今回だけで終わりではなく、事業所には引き続き丁寧な説明をしていただき、住民の理解を得られるよう努めてもらいたい。安全性向上対策については、重機工事は行われているが、まだ本格的には始まっていない。これについてもきちんと説明をしていくように求めていく。新安全協定も締結したので、これに基づき、タイミングごとに説明を求めるようにしていきたい。村では、6月24日に広域避難訓練を実施した。皆さんにもご協力をいただいたが、今回の訓練では実際に子どもを避難させて、保護者に受け渡しを行った。また、避難行動要支援者で車イスを利用されている方に避難してもらおう等、リアリティーを持って実施したつもりだ。今回の訓練では、ほんの一部の人だけだったが、これが何百人にもなってくるとどうなるか分からない。こういったことの検証については、まだこれからになるだろう。できることから実施し、今後もしろいろと考えながらやっていきたい。一方で、住民が話し合える場ができていない。今日も分科会があるが、やはり通常の生活に関わる課題が多い。このような場で、原子力をテーマにして分科会をやるのも難しいと思うが、どこかのタイミングでは、原子力政策について、議論というトリベートという感じがするが、いろいろな意見を率直に言い合えるような場が必要だと思っている。あまり対立するような構造にならないような形でやりたい。昨年、島根県松江市で住民が主体となってそういう場を設定したということがあった。手伝いをした団体の方からの話を聞き、東海村でできることを考えている。国・県にもそれぞれの立場で緊急時の対応を考えてもらっているが、原子力発電所がある市町村の置かれている立場をきちんと伝えて、国・県には対応をお願いしたい。他に日本原子力研究開発機構も大きな要素になっている。1月にも汚染事故が発生し、私からも厳しく指摘した。何よりも安全が最優先であり、現場を叱りつけるだけではなく、現場の最前線で働いている方の意見等も吸い上げて、何が安全には必要なのか。人の問題でマンパワー・人の数が足りないとか、予算が思うようにならないというのもあるので、文科省や財務省に予算を付けてもらうように要望をしている。しっかり対応していきたい。一方で、ここは研究施設である。研究施設として運転できていない状況なので、着実に耐震工事を行ってもらい、研究開発を進めてもらいたい。これによって人材育成にもつながるので、併せて国に要望したところだ。最大の懸案事項が再処理施設の廃止措置だ。新聞にも掲載されたが、ガラス固化処理が開始された。1本目は順調に処理が済んだと聞いている。今年度中に50本作るとのことだ。トラブルがあると、1・2ヶ月停止してしまうので、トラブル

真崎地区 村政懇談会

なく進めてもらうことが大事である。担当理事には、細心の注意を払い、着実に実行してもらいたいと伝えた。村としても注視していきたい。

真崎地区固有の課題で、「新たな地域の活動拠点」ということが言われている。根崎地区の方から意見が出ていて、地域の方と行政で委員会を作り、準備会から第3回まで計4回の話し合いを行った。直近の委員会の結果は、活動内容として「少人数でのお茶飲み会」、「健康体操」、「家庭菜園で採れる野菜のおすそ分け」、「子育てに関するアドバイス」等の意見があがった。村内の他の地区で実施されているサロン活動に近いものがある。これをやる活動の場所については、次回の委員会で検討することになっている。少しずつ話し合いが進み、ある程度の方向性が見えてきたと思う。集会所ありきではなく、どのような活動がしたいのか。その活動にはどのような場所が必要なのか。ここで、活動内容が決まってきて、場所の話になってきた。場所は、誰が整備し、維持管理するのかとなると、次は費用の話になってくるので、具体的な検討に入ってくるのだと思う。こういう話をしているのは、真崎地区が初めてになる。これがモデルケースとして走り出すと他にも影響を受けてくる。他の状況等も見ながら、制度としてどのような体制がよいのかは今後詰めていきたい。この委員会である程度まとまってきたので良かった。今後は村でもフォローしながら、ご希望に応じていきたい。

企画総務部長からの職員紹介

若手職員地域交流研修についての案内になる。今年度は真崎地区の防災訓練に若手職員3名を参加させていただき予定だ。目的は、地区自治会の行事に運営スタッフの一員として地域の方と一緒に、準備段階から終了まで、一連の活動を経験することで、コミュニケーション力の向上を図ること。また、普段の業務では経験することのできない地域活動の現状について理解を深めるとともに、地域の皆さんと行政の連携協力による協働のまちづくりを推進していくことを目的としている。参加する職員を紹介する。農業政策課 渡邊大地、税務課 荒川真珠、環境政策課 沼田詢平の3名になる。よろしく願います。

【5. 話し合い内容報告（各自治会長）】

《第1分科会：子育て・教育について》原子力機構荒谷台区 佐藤自治会長

教育関連で、学校の中にエアコンを設置したことは非常に助かる。涼しい環境で勉強することはよいことだ。学校のハード面について、村へ意見が言える場を設けてくれたことに感謝している。グラウンドに日よけを付けてもらいたい、ベンチを設けてもらいたい、プールに屋根を付けるともっと使い勝手がよくなる等のアイデアがあがった。執行部からは東海村でも使える財源が限られているので、順次対応していくという回答があった。

真崎地区 村政懇談会

村松小学校へ行く時の通学路について、108の階段の下の所に水が溜まっている。冬になると氷が張っている。これに対して状況を確認して対応するという事だ。村松小学校のプールは現在は使用しておらず、笠松運動公園の屋内プールを使用している。使用していないプールがそのままなので藻が生えていたりして不衛生だ。これについては、できる範囲で対応したいという回答だった。

国体関係について、地元として「東海村に来てよかった」と言ってもらえるように協力したい。協力の仕方については、村主導の応援練習に参加する等の選択肢が示された。ぜひとも成功させたい。

教育について、今後AIの活用によって、仕事がなくなっていくことが予想される。今の子ども達はどのような能力を付けるべきなのか。育てるためにはどのような教育が必要なのか。という質問があった。AIについては、まず、先生が使えることが前提になる。それにはハード面の整備が求められ、子ども達にはAIが使いこなせるように、プログラミングの授業を拡充する必要がある。また、AIだけではできない社会性やコミュニティ、協調性については、今まで通り教育をする先生方に指導してもらうこと。これからの社会は自分たちで答えを見つけていくことが大事になるだろう。独創力や表現力を育てる、周りの人と協調し、人間力を育てるといった能力を高めるために、AI以外の教育も必要だ。また、グローバルな情報の共有になると、完全に英語の能力が必須となる。東海中学校では英語の大会に参加している生徒もいるということだが、英語能力の向上については、引き続き村の教育で対応していただきたい。

また、学校関係で校則やルールについても議論になった。地元で育った父母と自分の子どもが同じ小学校に通っているが昔と変わっていない校則があり、それはよいものなのかという意見があった。一方で、「靴下は白またはワンポイントのみ」といった指定があると、余計なことを考える必要がないので、それはそれでよい。という方もいた。どのルールを今まで通りにして、どのルールをこれからの時代に合わせていくのかを考えていく必要がある。学校は子どもを教育し、育てる場なので、子どもがよく育ち、教育がしっかりできるようなルールづくりが求められる。

他には、交差点のところに建物が密集している場所があり、見通しが悪くなった。という意見もあった。そこに限らず、地域の方が気付いたことを村に伝え、村でもそういう感性を持って地元を見てもらいたい。例えば、小・中学校の通学路が安全に確保されている等、引き続き地元と村が同じ方向性で対応していく。第1分科会の意見は以上になる。

《第2分科会：生活環境について》真崎区 大内自治会長

「にじのなか」は開店時間前から30人から50人が並んでいる。開店時間を過ぎても朝礼をやっているので運営を改善する必要がある。これについては、経営母体であるJAに村から話をするということだ。商品が安くて新鮮なので、飲食店等の方が

真崎地区 村政懇談会

大量に購入してしまい、売れ切れてしまう状況らしい。地産地消の観点から地元の方も購入できるようにしてほしい。回答は「検討します」だったが、これは「期待しないでほしい」ということかもしれないが、JAには客商売ということ伝えてほしい。

高齢化社会と言われ、4人家族だったが子ども2人が出てしまい、夫婦2人だけになり、その後は1人になってしまう。そんな時、役場に出向くと、いろいろな課をたらいまわしにされてしまう。高齢者が行った時はひとつの窓口でワンストップで終わるようにした市町村の事例がNHKで放映されたという話があった。村からはこれについても「検討します」という回答であった。

また、国体の前にもう一度クリーン作戦をしようという話があった。特に歩道に溜まっている泥をどうするか。他に草や木枝・燃えないものを袋に分別して道路を清掃しようという話も出た。やる時は全村一斉にクリーン作戦を実施するので、徹底してやっていきたいということだ。

村長からも話があったが、真崎地区からのコミュニティ施設の話だが、要綱の変更等の依頼をしているとの意見が出ている。前向きに検討しているということなので、近いうちに村長から新しい提案が出てくると期待している。

村道の歩道の話になるが、中学生が雨の日に傘をさして歩道を自転車で走行中に木枝に当たって転んでケガをした。傘をさして自転車に乗るのは交通違反だが、歩道の木は2m50cmの制限があるという。枝のところに傘が刺さって転んだという状況だと思う。交通ルールも大切だが、子ども達が安全に通学できるような対応をお願いする。

ソーラーパネルの話が出た。村内の空き地に進出しているが、村での規制はどうかという質問については、法律上、村として動くことは難しいということだ。メガソーラの50KW以上は別として、それ以下についての規制は当面はできないということだ。

道路の抜け道で、舟石川三区から原研通りに出るところは抜け道として今でも交通量が多いところだ。ヨークベニマルが開店することによって、さらに利用が多くなることが予想される。交通事故が発生する前に整備をお願いしたい。村道なので、村が優先して道路に色を付けたり、標識を設置する等の対応をお願いする。

畑を定期的にトラクターで耕すが、そこには何も植えていない。そういう畑が増えている。風が強いと埃が舞い上がるので、村としては麦を植える等の指導をしているらしいが、徹底されていないように思える。

非常に幅広い話で、生活をしていく中で草が生い茂っている場所が私有地・民遊地とあり難しいと思うが、通学路の整備については改善要望が出ていた。第2分科会の意見は以上になる。

真崎地区 村政懇談会

《第3分科会：高齢者福祉について》舟石川三区 加藤自治会長

高齢福祉課長より、高齢者の相談窓口として、地域包括支援センター「なごみ」を大いに利用してもらいたい。という話があった。

企画総務部長より、少子高齢化で人口が減っている。2065年には国の人口が8,800万人となり、1億人を切ってしまう見込みだ。東海村は2045年は3万1700人になると予想される。その中で高齢者は1万1,000人から1万2,000人になり、3分の1が高齢者になると想定されている。

議会事務局長より、議会質問の中から、高齢者の生きがい、アポ電対策、70歳まで働く環境づくり、高齢者の免許返納、交通事故対策、デマンドタクシーの増設等の質問が出ているという報告があった。

高齢者福祉についてのテーマだが、「足（移動手段）」に絞った議論を行った。免許返納の実績は、平成29年度：52件、平成30年度：123件、令和元年6月現在：46件、合計221件の返納があった。免許返納に対してデマンドタクシーの利用券、商工会の商品券を景品としたために返納が多くなっていると思われる。景品は1度きりなので、例えば2万円分のデマンドタクシー利用券を使い切ってしまうと終わりにになってしまう。その後についても再度検討してもらいたい。

「移動手段」のテーマでは、歳をとると人に迷惑をかけたくないという思いがあり、人をお願いすることができない。ふれあい食事会等でも「ちょっとお願い」ということができない。ふれあい食事会は参加者やボランティアで支度をするが、高齢化によって会場まで行く手段がない等の意見が出た。例えば、社協のスタッフに送迎をお願いすることはできないのかを検討してもらいたい。また、電動アシスト付4輪車、歩行補助器（腰が曲がっても支えられるもの）等を準備すれば、移動が可能になるのではという声も上がり、購入に際して村から補助があれば助かるという話が出た。電動アシスト付4輪車になると10万円から20万円かかる。少しでも多く補助をしてもらいたい。

認知症予防の問題では、会話をする機会が少なくなった人が認知症になるリスクが高いとのことであった。外部との関りとして、自ら出歩いて、自分なりのテーマを作って出かけることができればよい。外に出たがらない方は会話をする機会が少なくなってしまう。また、耳が聞こえないことから相手の方に迷惑をかけてしまうので、どうしても会話が少なくなってしまう。そこで、補聴器の補助をしてもらうことはできないか話し合った。集音器は安いもので2万円から3万円、補聴器は高いもので30万円から50万円程かかる。高額なので補聴器までは我慢してしまう傾向があり、会話ができなくなってしまう。自分だけの世界になり、家でテレビを見て過ごすのではなく、なるべく外へ出てもらうようにすることが大事だと思う。

AIスピーカーについて、問いかけに答えてくれるロボットのようなもので、一人でも会話ができる。日立製作所と手を組んでできないものかという話もあった。

真崎地区 村政懇談会

真崎地区の「おたすけ隊」、「ちょこっと隊」についても話題が出た。これらの団体の主な活動内容は地域のちょっとした困りごとの解決である。「おたすけ隊」が真崎区、「ちょこっと隊」が舟石川三区で活動している。これに補助は出ないのか、という意見があった。難しい問題で、自治会で運営しているのか、地区社協で運営しているかがはっきりしていない。これらの団体の活動内容が地域にとってプラスになっているのであれば、村でも考えていただけるとありがたい。

村では「ふるさと納税」を始めるということだが、「おたすけ隊」や「ちょこっと隊」が行っていることを返礼品とすることも検討の余地があるだろうと思う。村ではタクシーのチケット券を検討しているということであった。「高齢者の足」ということで移動手段にテーマを絞ったが、高齢化社会にとって大きな問題だと思う。村でも検討して、よい方向に行ければよいと思う。第3分科会の意見は以上になる。

【6. 村長及び教育長からの意見等】

村長：熱心な議論をありがたい。私も分科会を見て回ったが、「子育て、教育」については教育長に任せる。

生活環境については、直接生活に関わることになる。いろいろな意見があったが、それを解決するためには、どのようにすればよいかまでは至らなかったようだが、いくつかのアイデアが出た。どのようなものが今の東海村に合っているかを考えていく。冒頭でも言ったが、地域によって事情が違っており、元々の地域の絆が強いところは互助の精神で助け合いながらやっている。新しい住民が多い地域は元々の関係性も薄いので、頼みづらいものがあり、システムとして入れなければ難しいと思う。費用はかかってしまうが、払った分のサービスを受けることもできればお互いにすっきりするのではないか。これは地域ごとに違ってくると思う。昨年から緑ヶ丘区と亀下区をモデル地区として、両地区の将来のあるべき姿等について、地域の方々と話し合いを重ねている。緑ヶ丘区は65歳以上の高齢者が50%を超えている地区になり、とても深刻だ。今は車で買い物に行けているが、いずれ車が運転できなくなる。緑ヶ丘区は日立製作所関係の団地になっているので顔見知りの方も多く、絆は強い。ただ、動ける人が減っている。課題が明確で、団地でまとまっているので、何かを投資しても効果が高いと思う。夢は伴っていないかもしれないが、自動車の自動化が進んでいて、AIも付いて無人でも動く時代だ。道路に基盤を埋め込めば、定期的に車が動くようなこともできる。管制塔とどのようにつながかは分からないが、団地内の移動がそういうものでできるようになっていくであろう。民間ではいろいろな研究をしているが、研究時の実験場所として提供したいと考えている。費用を払ってやってもらうのではなく、研究の一環でやってもらう分にはタダでできる。先進的な取組みとして、民間からの話があった場合にはぜひのってみたい。全国的に先進的な事例として紹介してもらうことはできると思う。真崎地区は広いので、同じものをすぐには展開できない。

真崎地区 村政懇談会

きっかけができれば、その地域にあったものができると思う。ハードが伴うので、非常に費用がかかるのだが、そういうことをやっていかなければ太刀打ちできなくなると思っている。

高齢者の認知症は非常に心配している。認知症の割合が高くなってきている。75歳以上の後期高齢者になってくると認知症の率が高くなる。その前の65歳から75歳までの前期高齢者に対して、健康づくりや生きがいをやっていけば、ある程度防ぐことは可能だと思う。認知症は病気なので薬の開発も進んでいて、ある程度の進行を防ぐことができる。医療には期待をしているが、運動機能も低下してくるので、支え合いしかないと思う。人との関係性を持っていけば認知症等にはなりにくいことが考えられる。地区社協でもやっているサロン活動を残していきたい。同じ活動を続けるのではなく、グループを変えながら常に新しい人を取り込むような形で進められればよい。真崎地区ではいろいろなグループがいろいろな活動をしているので、見習っていきたい。

生活環境について、皆さんが目につくのは道路だと思う。道路そのものが傷んでいる。幹線道路の整備は終了したが、生活道路が凸凹しているの、そこは予算の範囲以内で優先順位を付けてやっていくのでいずれ良くなる。道路は一定程度使えば順番に傷んでくるものであり、先送りにするのではなく、定期的にやらないと余計に費用がかかってしまうので、財政的にもよく考えて一定程度の予算を使いながらきちんと維持管理していく。歩道についても大変で、新しく造る必要もあるが既存の歩道の整備も必要だ。そこに街路樹が入ってきて、緑があって非常によいのだが、大きくなりすぎている。強剪定をいくつか行ったが、やり方が悪くて裸のようになってしまい、お叱りを受けたところもある。強剪定は基本的には冬に行うので、秋に緑がいっぱいのは冬まで待つてほしい。緑は大事だが、私は安全の方が大事だと思っている。標識や信号が見えないというのは困る。大型トラックやバスがそれを避けるためにセンターラインに寄ってくると危険だ。道路にはみ出しているものは切っていかなければいけない。そこは形が悪くなくても勘弁してほしい。あくまでも安全第一で緑とのバランスを取っていきたい。側溝の土の話等、いろいろな話があると思うが、全てを役場が業者に委託してしまうと費用の話になってきてしまう。地域でやれることはやるという話も出ていたので、小さいものは地域の方にも手伝ってもらいながら、役場と住民の方の両方で住みよい環境を守っていきたいと思う。農地もどんどん宅地化されている。優良農地を守りたいという想いは強いのだが、農地を残しても担い手がいなければ土埃がまってしまう。逆に農地を残すが、家が建ってしまうと、トラクターで耕す時にうるさいとか、洗濯物が汚れるといった苦情が出てくる。非常に難しい問題で、両方の意見があるので、話し合いをしながらバランスよくやっていくことが鍵だと思っている。ソーラの話もそうだが、メガソーラーが出来てしまうと大変なことになる。それをどのように事前に住民の方に知らせることができるのか。事業者と住民

真崎地区 村政懇談会

の方々でどのような話し合いができるのかについては、現状では事業者に言うことができない。「できないじゃないから、何とかしてほしい」と言われているので、そこは研究していきたいと思っている。皆さんからはいろいろな要望があるが、全てを村ではできないこともある。村と住民の皆さんが一緒になり、やっていきたい。村に言ったから何とかなるのではなく、村にも言うが自分達でも動くことで一緒にやっていきたい。直ぐにできないことが多々あるが、もう少し時間をいただき、今後の状況を見てもらいたい。今後ともよろしく願います。

教育長：第1分科会の子育て・教育について話をする。村松小学校区の皆さんが集まっているので、村松小学校・東海中学校の子どものために地域でいろいろな支援活動をしていただいていることに対する感謝と今後の期待について話をしたい。

子ども達の登下校における見守り活動をしていただき、感謝申し上げます。特に旧道や中央地区の工事の所を渡してもらっている。私も立哨に立つ時があるが、村松小学校の子ども達は、車が通らなくても右・左・右の確認をしてから手を挙げて横断歩道を渡ることを徹底している。保護者や地域の方が温かく見守ってくれているのでうれしく感じる。今後ともよろしく願いたい。

7月14日に茨城国体の炬火式を行った。その時は真崎地区の大勢の方に白方小学校に来校され、協力をいただいた。マイギリ方式の火起こしだったが、2班程点火しなかったが、他の班は無事に点火することができている。

村松小学校はコミュニティ・スクールとして2年目を迎えた。特に今年度は、真崎古墳群で地域の方々に説明をしていただき6年生の歴史学習のスタートがきれた。古代体験や歴史学習のロマンを感じることができている。地域の方々が地元の歴史を子ども達に伝えていき、村松小学校周辺の歴史、東海村全体、茨城県、日本を見ていく。とてもよい学習ができることをうれしく思う。6月23日の真崎古墳群の清掃活動に私も参加したが、東海中学校の1年生5名が参加していた。これが活きた教育だと思った。子ども達が真崎地区の方々と関わることで、教科学習では学べない社会性が身についてきていると思う。そこでは地域のしくみも学べている。

5月8日に村松小学校で第1回学校運営協議会があり、自治会長や民生委員・児童委員協議会の代表者、PTA、商工会等が村松小学校についての話し合いを行った。「子どもを守る110番の家」という看板があるかと思うが、そういうものは学校が考えるのではなく、地域が一番知っている。「あの家は高齢になって、子どもを守るができないのではないか」、「新しいお店ができたのでお願いしたらどうか」等を知っているのは地元の方だ。地元の方がどこにお願いすれば子どもを守る110番になるかどうか。地域でそのような話ができただことは非常にうれしいことだ。8月21日に第2回学校運営協議会があるので、この時に危険箇所等の情報提供があるとありがたい。また、先ほどの話で、中学生が傘をさして自転車を乗っていたのはルール違反

真崎地区 村政懇談会

になるので、その場で厳しく注意してほしい。今の中学生はきちんと言うことを聞くのでよろしくお願ひしたい。今後、真崎古墳群の行灯まつりやFOODフェスタ、ふれあい食事会等が行われ、こういった場に子ども達が参加していくので、その時に地域のおじちゃん、おばちゃんが自分の言葉で子ども達に生の声で伝えていただきたい。地域の方に褒められることが子ども達にとっては大きな自信につながり、ちょっとした困難な場面でも克服する力がポジティブに生きていく力が育っていくというデータがある。先の見えない社会を自分で切り開いていく力につながっていくと思う。英語力を高めることも大事だが、人間力を高めることが一番大事で、活きた働く力とは、まさにそこにあると思う。今後とも地域の方に子ども達を褒めていただきたい。よろしくお願ひする。

最後に村松小学校のプールの話があったが、今までは、どこの小・中学校にもプールがあったかと思うが、村松小学校は創立38年になり、老朽化で維持管理に費用がかかってしまう。中丸小学校も照沼小学校も新しい校舎にしたが、プールは造っていない。学校のプール利用頻度は12時間程度になっている。維持管理経費を考えた時に、村民プールや笠松運動公園プールを利用した方が経費がかからない。笠松運動公園プールは屋内なので、雨天でも実施することができ、プール学習の時間が確保できる。昔は絶対に25m泳げるように指導したが、今の時代は学校の先生がプールに入り、一人ひとりに泳ぎ方を教えることが現実的にはできない。これからは笠松運動公園で水泳のインストラクターに基本的な指導してもらう方が子ども達にはプラスになると思う。学校内にプールがあることが理想だが、維持管理費や利用頻度、指導の比率を考えた時に外のプールを利用した方がよいので、ご了承いただきたい。

村松小学校・東海中学校の子ども達を地域の皆さんで育てていく、コミュニティ・スクールを更に充実させていきたいと思っている。今後ともご協力をお願ひする。

【自由質問】

真崎区住民： 収入格差の是正が世の中で騒がれているが、私は格差を是正しなければいけないところもあるが、格差があってもよいという認識を持っている。例えば、サッカーやバスケットボール等のスポーツで沢山のお金をもらっている人がいる。一生懸命にやった成果だという話もあるが、学問でノーベル賞をもらった人はそんなにお金をもらっているのだろうか。そのため、こういう格差はなくすべきだと思う。逆に格差があってもよいと思う部分は、小・中学生の憧れの職業として、学校の先生や公務員になって皆のために尽くしたいという人の給料は高くてもよいという考えがある。ただ、それに適任ではない方は辞めていただく。少なくとも適任の方に対しては格差があってもよいと思う。村長はどのような考えか聞きたい。

村長： 大変大きな話だが、例えばプロ野球選手にはスポンサーが付いている。商売になっていてお金が動いている。これも憧れの職業だと思う。学術についてもそういっ

真崎地区 村政懇談会

た研究を突き詰めたい人もいると思う。研究を頑張っている人は、ノーベル賞を取りたいがために研究をやっているのではなく、その結果として出ているのだと思う。そのゴールのところが違うと思う。公務員が頑張っていると言ってもらえて非常にありがたいが、私の口からは肯定はできない。今の中学2年生の職場体験では、村内の事業所の数が足りないので、役場でも場を提供し、選択肢のひとつとして考えてもらっている。これは今後も続けていく。コミュニティ・スクールでも、地域の方々からどんな大人がどんな仕事をしているのかを子ども達に分かってもらい、子ども達が将来的にいろいろなことを考えられるようにしていくことで、その中で自分が理想として、やりがいを持って働ける職業を見つけてもらえることが大事だと思っている。子ども達にはいろいろな体験をしてもらい、その中で自分なりの理想を追い求めてほしい。そこを応援することはしっかりやっていきたい。

舟石川三区住民：子ども達の立哨を週1回担当している。今週になり、やっと地区から何名の子ども達が登校しているのかが知らされた。班長の子に、この班は何人の構成で、今日の登校は何人かを聞いても分からないと言う。朝出る時に、班員の確認をしてほしい。また、班長の役目をきちんと教えてほしい。

教育長：立哨の指導をしていただき、本当にありがたい。登校班は前に班長、後ろに副班長を付けて登校している。更に間の子も見るように指導しているので大変な役目だと思う。この件については、班長は班員を確認してから登校するように学校には伝えるが、周りの大人の方も何人いるか確認してほしい。また、歩道からはみ出している子どもがいれば温かく声を掛けてほしい。よろしくお願いします。

以上